



1 / 保育園からの幼なじみ男子高校生が澄んだ歌声で熱唱 2 / イベントのために短い期間で集中して覚えたダンス 3 / 手作りのお菓子を販売する高校生 4 / カラフルなアクセサリーに目を輝かせる児童ら 5 / 展示の書を眺める来場者 6 / みんなから花束が贈られ、感激の涙を流す主催者の佐々木さん 7 / スタッフ全員が笑顔で記念撮影

## 頑張る人に

## スポットライト

**頑**張る人を応援するイベント「SPOTLIGHT」が1月15日、中央市民センターで行われ約350人が訪れました。

このイベントは高校生の佐々木陽菜さんが、コロナで思うように活動ができないなか、文化祭のようにダンスを楽しく発表する場が欲しいという思いから企画。さまざまな分野で頑張る高校生の発表の機会をつくり、スポットライトをあてました。高校生らは、お菓子作りや販売にも挑戦。自ら撮影した写真や毛筆なども展示し、来場者の目を惹きました。

市内の店舗も特別出店しコーヒーや雑貨などを販売。小物づくりを楽しむ子どもや地域おこし協力隊の山下竜司さんが鏡で作った絵馬に、願い事を書き込む人たちがあふれました。ステージでは、社会人による漫才や幼馴染の男子高校生2人組の歌、キレのあるダンスなどが観客を魅了し、満員の会場は大きな拍手に包まれました。



最初はダンスイベントを考えていましたが、自分だけではなく、同年代の頑張っている人を輝かせるような、みんなで作り上げるイベントにしたいと思い企画しました。悩みや心配事が多くつらいこともありましたが、ステージからたくさんの人の笑顔を見て、開催できて本当に良かったと心から感じました。



佐々木さんと、一度自身の店で一緒にイベントをしたのですが、いろいろなことをやってみたいという積極的な気持ちを強く持っていました。今回、補助はしましたが、楽な気持ちで自分も参加できました。若い人たちがイベントに触れ「久慈も面白いんだよ」と思うきっかけになってくれればうれしいです。



毛筆で色紙や紙に言葉を書き、来場者に手渡しました。幅広い年代の人と触れ合えることも芸術の魅力だと思うので、今後も書道を続けていきます。(小倉) 相方に軽く誘われ、気軽に参加を決めましたが、予想以上にたくさんの人がいたので、すごく緊張しました。最後まで歌い切れて楽しかったです。(畑田)



誘いを受けてから売れるだろうかと不安がありました。完売できて安心しています。おいしかったよと声を掛けてもらい、本当に感激しました。(鈴間) 旬の食材を生かしたゼリーやアップルパイなどを作りました。一度は手作りのお菓子を販売したいと思っていたので、願いが叶いうれしかったです。(東野)

